

情報公開文書

研究課題名	<i>Staphylococcus lugdunensis</i> 感染症に対する最適治療の研究
研究機関名	武蔵野赤十字病院
研究責任者	所属 感染管理室・薬剤部 氏名 加藤 智之
研究期間	臨床研究倫理 審査委員会承認日 ～ 2031年12月
研究の意義・目的	<p>世界中で薬剤耐性（AMR）に起因する死亡者数は増加傾向にあり、我が国においてもAMRによる死亡者は決して少ないわけではありません。AMRに対する対策を行わなければ、2050年にはアジア地域でも年間500万人以上の方が死亡すると推算されています。そのため、AMRの発生や拡大を抑制するためには抗微生物薬の適正使用が必要ですが、適切な治療薬や治療方法が確立していない微生物とその感染症が存在します。<i>Staphylococcus lugdunensis</i>（<i>S. lugdunensis</i>）は黄色ブドウ球菌と似た性質や病原性をもち、とても重篤な感染症の原因菌となります。そして、<i>S. lugdunensis</i>もAMRの観点から注意が必要な微生物であり、メチシリン耐性を獲得した場合には、治療薬として使用できる抗菌薬の数が限定的となってしまいます。一方で、<i>S. lugdunensis</i>が検出される機会は黄色ブドウ球菌などよりも少ないため、治療成績や治療薬の評価が今後必要です。よって本研究では<i>S. lugdunensis</i>による感染症に対する抗菌薬選択や治療方法等に対して評価・検討を行い、最適な治療方法を確立することを目的とし、その結果は有意義なものと考えます。</p>
研究の方法 (対象期間含む)	<p>単施設での後ろ向きコホート研究となります。</p> <p>2016年から2030年の間に武蔵野赤十字病院を受診し、微生物検査が実施され<i>S. lugdunensis</i>が分離され、その感染症として治療を受けた患者さんを対象とし、電子カルテから以下の情報を調査します。</p>
①試料・情報の利用目的及び利用方法 （匿名加工する場合や他機関へ提供される場合はその方法含む） ②利用し、又は提供する試料・情報の項目 ③利用するものの範囲 ④試料・情報の管理について責任を有する者の氏名または名称	<p>①臨床情報は匿名化された情報を管理・解析します。</p> <p>②患者背景に関する情報は、年齢、性別、既往歴、合併症、治療経過、臨床検査結果、画像検査結果に関する結果です。また、診療の目的で提出された微生物検査検体より分離された病原体(単離が難しいものについては、病原体を含む残余 検体) の病原因子および薬剤耐性因子を対象とします。</p> <p>③武蔵野赤十字病院の研究責任者、研究分担者、研究補助者</p> <p>④武蔵野赤十字病院 研究責任者 加藤智之 ならびに 武蔵野赤十字病院 院長 黒崎雅之</p>
問合せ先	<p>当研究に自身の試料・情報利用を停止する場合等のお問い合わせ</p> <p>〒180-8610 東京都武蔵野市境南町1-26-1 武蔵野赤十字病院 所属 感染管理室・薬剤部 氏名 加藤 智之</p> <p>TEL : 0422-32-3111（代表）22600（事務局内線）FAX : 0422-32-3525</p>